

代表 吉田 友彦（筑波大学社会工学系 講師）

【研究報告要旨】

1997年に設立された特定非営利活動法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫の許諾を得て、そのWebページのアクセスログから個々のページの閲覧頻度を解析した。月当たり1800人、1日当たり60人が160ページの閲覧を行っている。トップページの閲覧量が多いのは当然として、貴重写真を公開するギャラリー、資料検索、設立の主旨、出版物の案内等がよく閲覧されている。また、閲覧者が最初に見るページと最後に見るページを比較して分析した。「出版物の案内」「夏の学校2002」「設立の主旨」「検索トップページ」は入ってくる人が少ないにもかかわらず、出て行く人が多い。「住宅営団復刻版刊行記念シンポジウム」「大阪展を振り返って」「高橋晶子氏紹介」「渡辺豊和氏紹介」「役員一覧」は入ってくる人が多いにもかかわらず、出て行く人が少ない。ドメイン別にWebページの閲覧需要を計測したところ、文庫の閲覧数は接続業者53.1%、教育研究31.0%、企業14.2%、官公庁1.8%となっていた。西山文庫サイト利用者の大学関係者への特化が示された。次に、Yahoo!からの来訪者属性を解析した。文庫サイトへの月当たり1800人の訪問のうち、Yahoo!から来る者は800にも及ぶ。4割を超える訪問がYahoo!を通じて来ているのは、予想以上の量であった。Yahoo!では人名に関心を持って閲覧を開始する者が多くいる。

Web上に公開したデータベースへの検索状況を解析した。月当たり160件の検索があった。1日当たり5から6件であった。Webの閲覧よりも大学関係者の検索が1割ほど少なかった。検索用語を分類したところ、住宅・生活（35%）、建築一般（22%）、地域情報（15%）の3つの分野で約7割が占められる結果となった。関西地方外からの利用が多い。企業ドメインからの検索者は、特定の地域や地区名からより細かい情報を求めて来訪する。

文庫の名称が「すまい・まちづくり文庫」であるがゆえに、住宅や住居、生活、家政についての閲覧需要が高いと言えるが、その次に続くのは、都市計画やまちづくりというよりは、建築一般に関する需要であった。今後はこのような分野についての情報発信をすることに重点を置いていくことが需要に見合った活動であると言える。